

### 産業化促す面談

大学や研究機関が数多く存在するつくば地域には、学術的に価値のある研究シーズが多数存在する。そのシーズを事業化へ導き、産業へと発展させるため筑波大学が力を注いでいるのが、外部専門機関による研究技術の目利きだ。

研究開発や事業化が自発的に巻き起こる「イノベーション・エコシステム」の構築を目標し、2014年12月から経営共創基盤（東京都千代田区）に研究シーズの評価と研究者への助言を依頼し

## つくばの新たな挑戦

### イノベーションエコシステムの構築

### 研究シーズの鑑定

「こう話すのは筑波大産学連携部の鳥取猛志リサーチ・アドミニストレーター（Rニストレーター）だ。研究者やベンチャー起業希望者の中から学術的に優れた研究テーマを選択し、経営共創基盤

く、投資家との面談は時期尚早だと考え



シーズが日々生み出されている筑波大学（筑波大提供）

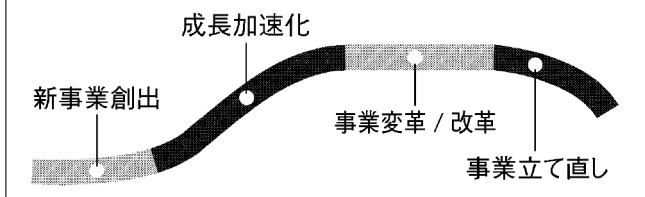
# 民間コンサルが助言役

この面談の取りまとめを担当する。12月に面談を受けた筑波大数理物質系物理学領域の都甲薫助教は、次世代デバイスに向けた半導体材料の研究

### 意識変化を実感

以前の産業応用分野については想像していたが、経営共創基盤は07年、産業再生機構に各技術に詳しい専門家

### 経営共創基盤による支援の流れ



われる。

### 有望株30件超す

15年12月現在、筑波大や物質・材料研究機構、農業・食品産業技術総合研究機構、高エネルギー加速器研究機構で30件を超える面談が実施され、5件が2回目の面談へと進んでいる。経営共創基盤の斉藤剛取締役マネージングディレクターは「つくばにはダイヤモンドの原石が存在する。原石を探して磨き、仕立てることで、価値あるシーズを世に輩出した」と期待を込める。（次回は2016年1月21日付に掲載）